

鹿児島県の 子どもの貧困について

TERAYAMAチーム

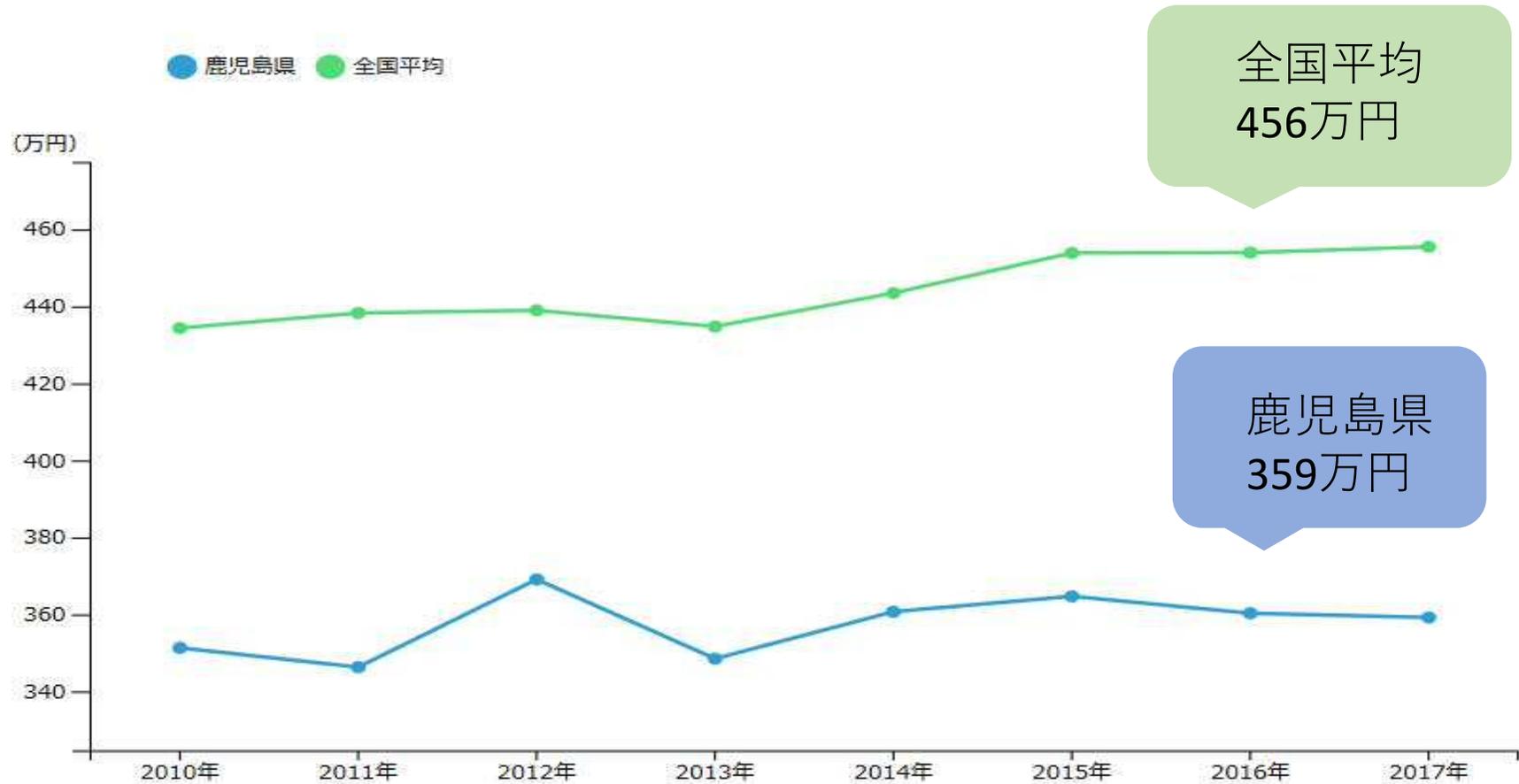
小山花菜 寺脇汀

概要

- データで見る貧困
- 各機関での取り組み
- 課題整理
- 理想
- 私たちの政策提案
- 政策の目的
- 私たち大人にできること
- 将来像

一人当たりの賃金

全国平均に比べて鹿児島県は低い



全国平均
456万円

鹿児島県
359万円

都道府県別 子ども貧困率 ワーストランキング

2012年現在

1位 沖縄37.5%
2位 大坂21.8%

3位 鹿児島20.6%



都道府県別賃金 ワーストランキング

2018年現在

1位 沖縄 2,468,000円

2位 鹿児島 2,521,000円

3位 宮崎 2,315,000円

賃金が低いことに加え、
子ども貧困率も高い

ボランティア活動 全国順位 2016年現在

子どもを対象とした活動

1位 石川県 11.0%

2位 滋賀県 10.8%

3位 鹿児島県 10.7%

人口10万人当たりのNPO法人数の全国順位

2017年現在

1位 東京都 69.88

2位 山梨県 56.52

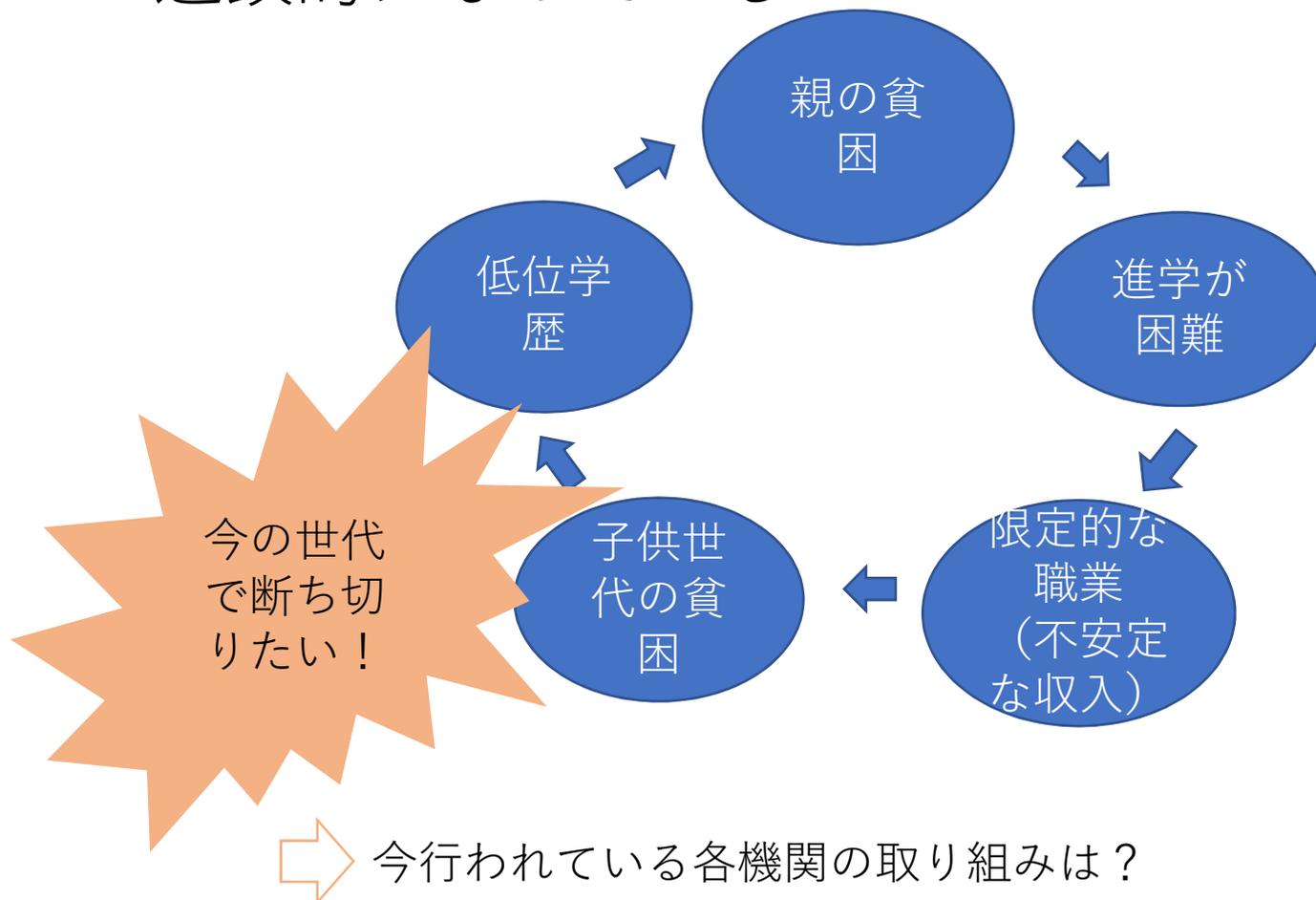
3位 京都府 52.91

4位 鹿児島県 52.89

全国的にみても、
活動はされている！

親の収入と子の貧困の関係

連鎖的になっている



鹿児島市役所子ども福祉課

現在行っている取り組み例

- ペアレントトレーニング
 - ひとり親世帯への生活保護支給
- ⇒家庭より、親への支援が主
- **課題**
 - 各家庭に深く潜入することは難しい
 - 子どもへの直接的なケアが不十分

子ども食堂

- 県内46か所にある（鹿児島市内16か所）
貧困な子供たち専用の子ども食堂も増加
- 他者との交流、食育も
学習の場でもあり、要らなくなった服の交換会もある
- **課題**
 - 行政、福祉館、あいご会、NPOなどのネットワークの構築が難しい
- 実際に来てくれた子にしか支援ができない

課題整理

子どもへの直接的なケアが不十分

→食事、心、教育の何に一番困っているのか分からない

- 各機関の連携不足

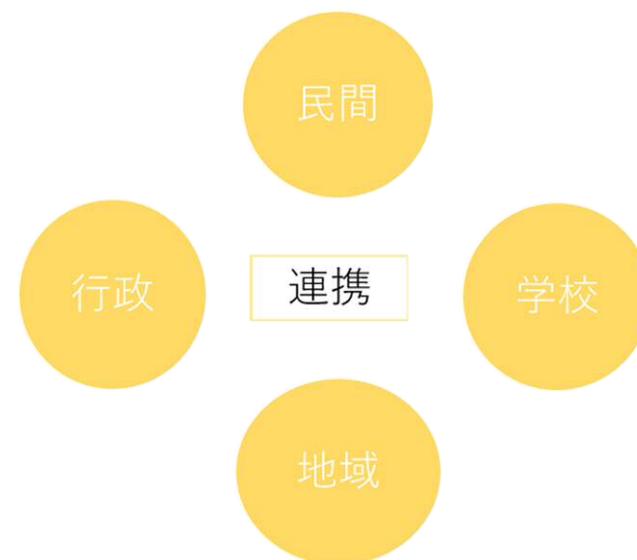
→子どもの情報共有ができず、支援の緩急の判断が遅くなる

- 子ども食堂は、実際に来た子にしか支援ができない

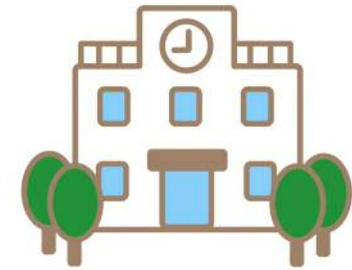
→本当に支援が必要な子がどこにいるのか分からず、支援ができない

理想

- ・ 各機関の横の繋がりを増やす
より多くの大きな支援ができる
- ・ 多くの市民の理解を得ること
社会問題として認知されるようになる
- ・ 地域コミュニティの強化
様々な人が子どもを見守り、異変にいち早く発見対応できる
- ・ 継続的な活動
様々な大人が無理なく、長く続けられる活動



政策提案 子ども食堂の出前学校授業



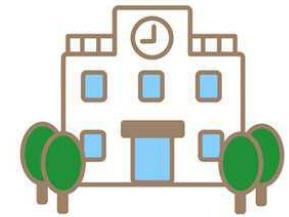
具体案

- ・子ども食堂運営者やボランティアスタッフを実際に学校に迎え、どういう場所か、日頃の活動内容などを教えてもらう
- ・保護者も参加可能
- ・子ども食堂 = 貧困の子だけが行く場所というイメージを直接払拭できる

誰でも来れる
ことをアピール！

政策提案

子ども食堂の出前学校授業



授業以外にも

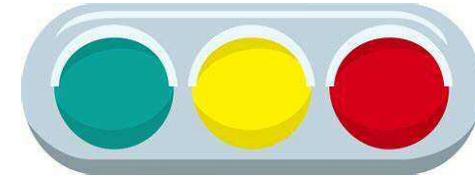
- 運動会でのおにぎり振る舞い
保護者が来れず、一人で弁当を食べる子にも居場所を作る
- 夏休みなどの長期休み期間
みんなで宿題をする場を提供したり、お昼ご飯をみんなで作り食べたりする場を作る

地域住民も積極的に参加してもらう

継続的にかかわる

- 学校と子ども食堂の連携を強化
- 子どもとの信頼関係を築く

政策の目的



黄色信号状態の子どもを見つけて、
支援を行う

信号機のとえ話

青 早急な対応は不必要

黄 地域や私たち大学生が見つけて、支援
することができる可能性がある

赤 行政など専門家による支援が必要

私たち大人に求められる姿勢

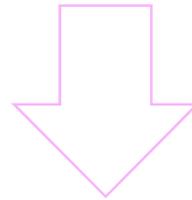
- 沢山の子どもに出会うこと
現状を直接知る
- 「子供の貧困」に興味を持ち続けること
- 親子を応援する機関や施設が多くあるという知識を得る
知らせる、認知を広げる
- できることから参加する
子ども食堂ボランティアなど

子どもの貧困に
興味を持ち続ける

将来像

子ども食堂
学校出前授業

子どもの貧困に
興味を持ち続ける



各機関の連携が密になる
子どもが助けを求めやすくなる